



その時、広島には黒い雨が降った

—1945 忘れまじ広島・長崎—



本日8.6は78年前の1945年、8月6日8時15分、広島に原子爆弾が投下された日です。当時、広島には黒い雨が降りました。その日のことを絶対に忘れてはならないという意義を含めて毎年、広島平和式典が行われています。今日は日曜日だったのですが、校長先生は前任校で毎年行っている8.6平和人権登校日に参加させてもらいました。8時15分に黙とうを捧げ、その後の松井広島市長の「平和宣言」、小学生2名による「平和への誓い」も視聴しました。かつて、祖国インドの独立を達成するための活動において非暴力を貫いたガンジーは、「非暴力は人間に与えられた最大の武器であり、人間が発明した最強の武器よりも強い力を持つ」との言葉を残しています。という市長の言葉が心に残りました。また、何よりも小学生2名による「平和への誓い」に心打たれました。以下に全文を紹介します。よく読んでください。

「平和への誓い」

みなさんにとって「平和」とは何ですか。争いや戦争がないこと。差別をせず、違いを認め合うこと。悪口を言ったり、けんかをしたりせず、みんなが笑顔になれること。

身近なところにも、たくさんの平和があります。

昭和20年(1945年)8月6日 午前8時15分。

耳をさくような爆音、肌が焼けるほどの熱。皮膚が垂れ下がり、血だらけとなって川面に浮かぶ死体。子どもの名前を呼び、「目を開けて。目を開けて。」と、叫び続ける母親。

たった一発の爆弾により、一瞬にして広島のまちは破壊され、悲しみで埋め尽くされました。

「なぜ、自分は生き残ったのか。」仲間を失った私の曾祖父は、そう言って自分を責めました

原子爆弾は、生き延びた人々にも心に深い傷を負わせ、生きていくことへの苦しみを与え続けたのです。

あれから78年が経ちました。今の広島は緑豊かで笑顔あふれるまちとなりました。

「生き残ってくれてありがとう。」命をつないでくれたからこそ、今、私たちは生きています。

私たちにもできることがあります。自分の思いを伝える前に、相手の気持ちを考えること。

友だちのよいところを見つけること。みんなの笑顔のために自分の力を使うこと。

今、平和への思いを一つにするときです。

被爆者の思いを自分事として受け止め、自分の言葉で伝えていきます。

身近にある平和をつないでいくために、一人一人が行動していきます。

誰もが平和だと思える未来を、広島に生きる私たちがつくっていきます。



令和5年(2023年)8月6日

こども代表

広島市立牛田小学校6年 勝岡 英玲奈(かつおか えれな)

広島市立五日市東小学校6年 米廣 朋留(よねひろ ともる)

「生き残ってくれてありがとう」・・・命の大切さを改めてかみしめながら残りの夏休みを大切に過ごしてください。熱中症には十分に気を付けて！